

府立箕面支援学校 「学校協議会」報告 (第2回)

日時・場所	平成 25 年 12 月 6 日 (金) 本校 校長室		
出席者	協議会委員	所属・職名等	学校(職名・校務分掌等)
	藤江 康彦	東京大学大学院・准教授	校 長
	山田 紅美	大阪府池田子ども家庭センター・課長補佐	教 頭 2 名
	阿久根 賢一	社会福祉法人福祥福祉会・理事	事務長
	本校保護者	本校 PTA	首 席・総務部長
			首 席 2 名
			首 席・高等部部主事
			小学部部主事
			中学部部主事
			記録者(総務部)
主な内容	本年度の学校経営計画の進捗状況について		
説明・質問・協議内容等	① 学校長挨拶 ② 学校経営計画について ③ 学校教育自己診断について ④ 事務局からの諸連絡 〈山田委員〉 ・ 自立活動連続講座の実施・参加状況・講師・対象・評価はどうなっているか。 →今後も実施予定。地域に公開し、若手教員も多数参加している。講師は外部の専門家を招いている。学内で得られるものと違った視点が得られ、普段の活動に生かすことができている。 ・ 専任の教員を置く際にどのような工夫がされているか。 →専任教員は担任から外れ、授業の持ち時間数も軽減される。担任減による負担は増えるが業務は平準化する。来年度は新しく首席・指導教諭・アドバイザーリースタッフの予定である。 ・ 学校教育自己診断の回収率について、アンケートが学校運営のどんな所にいかされているか見えると回収率も上がるのではないかな。 ・ 学校 HP はすばらしい。学校の状況がわかり、関係機関としてもありがたい。 〈阿久根委員〉 ・ 効率的・機能的な運営組織の構築による子どもと向き合える時間の確保について、勤務時間内でどれだけ確保するかを明記しないと、評価する際にあいまいになってしまう。		

	→子どもに向き合える時間は、授業中だけでなく、放課後集まって子どものことで話し合える時間を確保することも含まれる。委員会を分掌に吸収し、会議を減らした。 ・単年度目標と中長期目標とを整理した方がよい。 〈保護者委員〉 ・教員の中で講師の人数比が多いが研修のあり方はどのようになっているか。 →常勤講師については教諭と同じ業務を行い、校内研修も教諭と同じものを受けている。また校外の研修で常勤講師を対象とした人権研修がある。非常勤講師については時間的拘束があるので研修には参加できない現状である。 ・性教育について。高等部から知的障害のある生徒も在籍している。保護者が様々な問題に直面した時にどのように相談するか。結婚し出産するケースもあるので、現実的な性教育も必要ではないかと思う。 ・学校教育自己診断の教員分の回収率の低さについてどのような理由が考えられるか。 →大型行事と重なっていた、任意であることやアンケート結果がすぐ反映されると思われていない、目の前の仕事が優先されるのではないかとと思われる。 〈藤江委員〉 ・ミドルリーダーの配置を工夫されていることがわかる。一人に複数のリーダー役が重なると負担が増えてしまうので配慮が必要。 ・子どもと向き合える時間の確保の評価に関しては、量的に測れるものと質的に測れるものと両方の機会があるとよい。 ・キャリアのある教員と若い教員が一緒になって次世代を育成していく制度的な仕組みも必要であろう。非常勤講師への研修をどのように行うかが課題である。 ・児童生徒会の活動の充実を図るため、サポートする機関を充実させる。組織再編で児童生徒部と文化部の統合など計画されているので、次年度はより児童生徒が行事運営に参画できるようになるとと思われる。 ・学校教育自己診断の回収率は前年度より上がっているが、最前線の教員に組織運営の当事者としての意識を高めていく必要がある。 ・目標設定について、工程を説明する他に掲示などで普段から目につくようにする。視界に入ることによって理解が深まる。 ・学校 HP の充実、特別支援学校の活動を知ってもらう社会的意味があると同時に、進学を予定している保護者にとって心強い。
--	---